「友松」の変遷 Ⅱ

2011.2.3　発行
シリーズ 2－15
「友松」50 号

（1）　第50号　友松会報　昭和36年2月1日（水曜日）

友松

発行所
横浜市西区紅葉丘五三
横浜市教育会館内
神奈川県友松会
電話 ㊸8589番
振替口座 横浜359番
編集人　森田浪太郎
発行人　西川　豊吉

年頭の感
会長　小林梅茂（大四年卒）

八十余年にわたる友松会
副会長　西川豊吉（明四〇年卒）

土佐より
会員　甲藤義治（高知・南四市福船）

木下先生古稀のお祝

支部だより

川崎支部

横須賀支部
支部長　山田三朗

足柄下郡支部

南区支部
（会員各位へお願い）
支部長　三橋嘉一

図案募集

会報は、「友松」50 号記念号である。常任理事分担制になって初めての号となる。

会長の「年頭の感」によると「会則により毎年総会を開くことが決定した」と記している。また、会費が増額され、4 月から年額 300 円（100 円増額）となり、支部への割戻金は 50 円とするようになるようである。

そして、常任理事分担制（5 部門制）を採用して着々と成果が上がっていることを報告している。

第50号　友松会報　昭和36年2月1日（水曜日）（2）

記念品贈呈

理事会開催

校外会員の方へ

石野　瑛氏（大正一年卒）

堀江重次氏（明四四年卒）

（3）　第50号　友松会報　昭和36年2月1日（水曜日）

支部だより

川崎支部

横須賀支部
支部長　山田三朗

足柄下郡支部

南区支部
（会員各位へお願い）
支部長　三橋嘉一

図案募集

左の「支部だより」を見ると、それぞれの支部で総会を開き、支部役員を選出したり、新任会員の歓迎会を開いたりと活動の様子が報告されている。

ある支部は、研修旅行を兼ねて一泊旅行で総会を開いている。当然、補助金で賄えることは無いけれど、支部の殆どの会員が参加しているようだ。

この記事の「図案募集」の欄には、「本年度の事業計画の一つとして、会報を**雑誌型**として秋期に発行の予定であります。ついてはその表紙（三色刷）の図案を募集いたします」と書かれている。

新聞型の「友松」は、50 号が最後となったわけである。

≪ということで**「友松」の変遷Ⅱ**は、これで終わりとする。≫